

食・文化を次世代へつなごう！
駆け回った東近江市で見つけたものは、昔ながらの暮らしと知恵を大切にする心。
メンバー全員が感動の涙を流したのは、ドラマのワンシーンのような出来事。



つなごう!!

食事

KUIJI culture → P 6



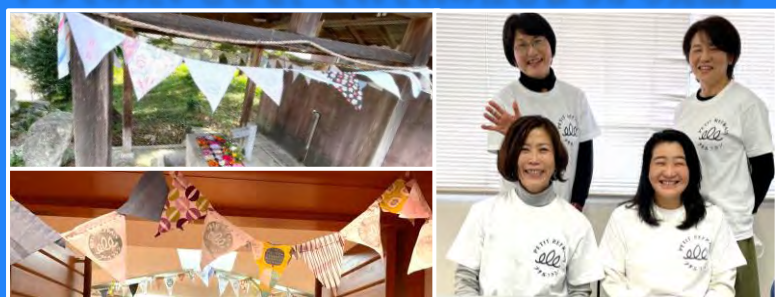
ダニーさんの秘密の湖部屋
シガリアン

→ P14

滋賀の魅力と認知度UPのために、まずは自分たちが楽しく！をモットーに、ジャンルにとらわれず、滋賀ファンを増やす企画をプロデュース。
滋賀の人口の10分の1を巻き込もうプロジェクトは成功したのか？



持続可能な社会って？
ふとした気づきや、ちょっとしたアイデアが琵琶湖や地球を守ることに。
手のひらサイズのSDGs、メンバーが知りたい・やってみたいことを、それぞれの住むまちから発信。



Petit Refrain
(プチ・ルフラン)

→ P22

コロナに負けず 湖国を愛し 淡海に寄り添った 19人の軌跡

2021.9～2022.12

おうみ未来塾 第16期生 成果報告書

《 地域が かわる 》



塾長 北村裕明

おうみ未来塾のグループ活動が、地域のその後の活動に影響を与えたという点で最も印象的だったのは、第7期生の「ひょうたんからKOMA」の活動でした。このグループでは、近江八幡市島学区にある琵琶湖岸に隣接する小島「権座」の価値を見直すために、権座でコンサートを企画し、数百人に上る参加者が集いました。この活動に刺激されて権座を管理する地元自治会が、権座を活用した地域づくりに本格的に着手します。権座で近江発の幻の酒米を栽培し、地元の酒蔵と連携して、権座と命名した日本酒を製造販売するようになったのです。後に私の演習に属する学生達を連れて、権座を調査し自治会長さんにお話を伺った時、未来塾のグループ活動が、権座を生かした地域づくりへの大きなきっかけになったと話されていました。

第16期生のグループ活動を伺いますと、フィールドとされた地域の地域づくりやコミュニティ形成のきっかけとなるような事例がいくつかあるようです。

「Petit Refrain」の「穴太 de マルシェ」プロジェクトでは、穴太高穴穂神社の価値を再認識してもらおうと、地元の自治会の全面的な協力を得て、神社でマルシェを実施しました。数百人の参加者があり、来年も行いたいとの声も上がっているそうです。同じグループの「ティアラを楽しく・くるくる交換会」プロジェクトでは、自治会もなく近所付き合いも希薄な大津市のマンションで、不要品の交換会を実施し、25%の世帯が参加し、さらに交流が進められようとしています。

「ダニーさんの秘密の湖部屋」では、海をつくる会名古屋支部のダイバーによる琵琶湖湖底清掃の活動に協力し、湖底清掃という重要でありながら十分ではなかった活動に、県内の関係団体とともに取り組みました。湖底清掃と県内外の団体との連携という点で、新たな活動への広がりが期待されます。

「つなごう!!KUIJI culture」では東近江の食文化を次世代に残すことを目的に、東近江の郷土料理や食材について、聞き取り調査を丁寧に行いました。そして東近江が発祥の地である「ガリ版」の伝承館で、郷土料理の食事会を実施しました。このグループの聞き取り調査は地域の人々に喜ばれ、彼らにとっても郷土料理の再発見につながったようです。

おうみ未来塾は、地域プロデューサー育成のための塾です。そのための学びのシステムを提供し、塾生の皆さんが地域プロデューサーに育つことを目的としています。卒塾の重要な要件であるグループ活動は、テーマや地域を選び、課題を発見し、解決のための政策を立案し、実践してもらうことになります。そうしたグループ活動の中で、地域プロデューサーとしてのスキルが育成されてくるのです。同時に皆さんの活動が、当該地域の地域づくりやコミュニティ形成のきっかけになるとすれば、大きな成果とも言えましょう。未来塾のグループ活動が、地域がかわるきっかけともなることを願っています。

おうみ未来塾 ～地域の担い手「地域プロデューサー」が育つ塾～

市民活動やNPOが地域運営の一役を担う時代となった今、企業や行政だけでは解決できない地域課題に取り組む人が求められています。

このような課題を発見し、解決のための方法を考え、そのための運動や事業をおこすことができる「地域プロデューサー」が育つ塾を目指し1999年に開塾。

受講期間の16か月の多彩なプログラムとフィールドワークから、市民力・事業力・ネットワーク力を主体的に学びます。

草の根から地域や社会を変えるものの見方や、

考え方を身に付け、幅広いネットワークづくりにつなげます。

これまでに、16期生の19人を加えた361人が卒塾しました。

地域・分野・所属・世代が異なる多様な塾生が集い、グループワークやディスカッションを重ね高め合う16か月。それぞれの人生のかけがえのない時間になりました。

なおちゃん

おうみ未来塾第16期生 学びのあゆみ

第16期生入塾式 2021年9月4日 オンライン

第16期開講記念講義
「地域プロデューサーの時代 再論」
おうみ未来塾塾長 北村 裕明さん

第16期開講記念トーク
おうみ未来塾アドバイザー
岡崎昌之さん、藤井絢子さん、
藤田知丈さん、根木山恒平さん

未来塾は、地域づくりを担う仲間づくり。
普段の生活に埋もれた地域の宝を発掘するのが未来塾。
共につながりを分かち合い、楽しい滋賀に。
未来塾は、担い手が育つ場。育ててもらうのではなく、
育ちなさい。

コロナ禍、オンラインでスタートした第16期生の学び。可能な限りリアル開催を試みながら、5回の本講座と4回のサブ講座で学びました。2021年12月にグループ形成し、5回目の本講座後も、2022年3月のサブ講座まで、塾生みんな学びを共有しました。



滋賀県にもコロナウイルス感染症の波が押し寄せ、緊急事態宣言の発令により、オンラインで開催された入塾式。せめてもの救いは、これからの運命を共にするマスクをしない仲間と画面越しにでも出会えたこと。

第1回本講座《1日目》 2021年9月18日 中山道柏原宿・米原市民交流プラザ（米原市）



現地見学・講義「旧街道のまちづくり」
おうみ未来塾11期卒業生/Ji-moデザイン
山本泰裕さん
講義「子どもの居場所づくり」
元NPO法人わっか代表 振角大祐さん
講義「地域プロデューサーたちの
現場に学ぶフィールドワーク」
おうみ未来塾アドバイザー 藤田知丈さん
ワールドカフェ



ボランティアを、ビジネスヘシフト。
つぶやきを逃さない。
多面的機能を見出す。

3つの本当に素晴らしい活動は、決して容易なものではないと感じた。まだまだスタートラインにも立っていない自分の位置を確認することができた。16期生の皆さんと、協力しながら育っていきたい。
(たけちゃん)

第1回本講座《2日目》 2021年9月19日 オンライン

講義「地域プロデューサーの心得」
おうみ未来塾アドバイザー 藤田知丈さん

あきらめなければ必ず実現する。
祈る、願うのではなく、思い描く。
違う目的で集まった仲間も、あとから課題を解決してくれる。

地域活動として、「現場を深く知る」ということが大事ということに深い感銘をもった。良かれと思って案を出しても、地域で既にやっている話か、もしくは現場の人にとったら良いことではないこともある。リサーチが非常に重要と感じた。
(ダニー)

第2回本講座 2021年10月2日 もりやまエコパーク交流拠点施設（守山市）

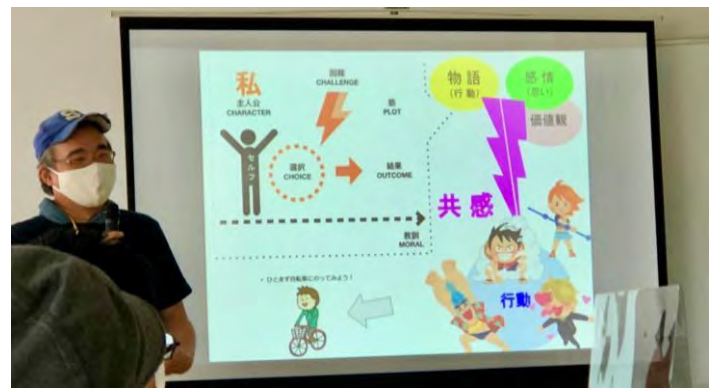
講義「戦略的コミュニティ・
オーガナイズのススメ」

おうみ未来塾アドバイザー 根木山恒平さん
おうみ未来塾9期卒業生/
くうのるくらすの創造舎 南村多津恵さん
ゲストトーク

おうみ未来塾アドバイザー 藤井絢子さん
おうみ未来塾15期生 北村真理子さん

コーチングとは、誘導ではなく、聴き、問いかけ、置き換え、解決策を考えさせること。
願いや想いは、感情の裏側にある。
踊り始める勇気をきっかけを一緒に。

相手のことをリサーチして聞き取りにのぞむこと、自分が伝えたいことを端的に話せることで、パワーオーバーを操ることにつながる。
なりゆきで進む会話に終わらせないための、聴く力と聞き出す技を身に付けたい。（みっちょ）



第3回本講座 2021年10月23日 あいとうエコプラザ菜の花館（東近江市）

講義「食とエネルギーの地域自立・
ポストコロナの社会
～菜の花プロジェクトの実践を通して～」

おうみ未来塾アドバイザー 藤井絢子さん
NPO法人愛のまちエコ倶楽部 事務局長 園田由未子さん
館内見学

講義「循環共生型社会を実現する資金循環のしくみ」
公益財団法人東近江三方よし基金
常務理事兼事務局長 山口美知子さん

Shopping for better world!
継続の先に価値あり。
三方よし 近江商人の心を。

数値化して評価できない価値を見出す。
地域の隠れたSOSの声を拾う。
文句、苦情を聞くだけでは解決にはならない。
大事にしているものは何か、その大事なものを大切に。
モチベーション継続の秘訣は、次のミッションを見つけること。

「買い物が世界を変える」という考え方からの持続可能な資源循環型社会を目指す取り組みは、受け継がれ、育てられている。
仕組み作りを、官民一体となって進めていく必要があると感じた。（えっちゃん）



第4回本講座 2021年11月28日

針江のんきいふぁーむ、生水の里 針江、
高島観光物産プラザ（高島市）

フィールドワーク

トーク「針江のんきいふぁーむの取組み」

針江のんきいふぁーむ 代表 石津大輔さん

講義「何が課題か、誰が担うか、新しい地域づくり」

おうみ未来塾アドバイザー 岡崎昌之さん

地域問題 解決型の地域づくりと

将来社会整形型地域づくり。

経済的持続を目指す「農業」よりも、身の回りにあるものを
生かす「農」がCOOL。

地を這い感じ取る「虫の目」と遠くから相対的

に見る「鳥の目」で物語を作る。

将来を見据えて、危機を見抜く。

耕作放棄地をなにもしないとどうなるのか？

針江の集落を保存するためにはどのくらいの人が必要か？

何が必要で、どうしていくのが最善なのかを想像することと、今、
どう考えていくべきか、とてもよく理解できた。（やぶこ）



第5回本講座 2022年1月15日

滋賀県立県民交流センター（大津市）

講義「リーダーシップと合意形成」

元おうみ未来塾アドバイザー

元NPO法人パートナーシップ・サポートセンター 代表理事

岸田真代さん

グループワーク

「組織が発展、成長するための最も適切な答えとは」

不満と問題意識、理想と現実の
ギャップを誰が埋めるか。

自らの特性を数字で理解できた。

この自己分析の結果から、今後どのように意識的に行動できるか、
組織の中の自分とは違う考えや行動を理解し、いかに建設的な「合
議」がとれるかが、組織と自らの成長に大きく影響すると感じた。
（たけっちょ）





第1回サブ講座 2021年11月14日

オンライン・コミュニケーションのスキルアップ
おうみ未来塾9期卒塾生
くうのるくらすの創造舎 南村多津恵さん

第2回本講座で講義いただいた南村さんに、コロナ禍で必須ともなった「オンライン」による、より効果的なコミュニケーションのスキルを学びました。

第2回サブ講座 2021年12月2日

卒塾生の経験談
おうみ未来塾15期卒塾生 細江美和子さん

1期先輩の経験談を聞くことで、この頃グループ形成して間もない私たちが「今やるべきこと」が見えました。
また、湖国のニーズや現状を知ることにもつながりました。

第3回サブ講座 2022年2月13日

SDG s を学ぶ
循環社会創造研究所えこら 藤田アニコーさん

知っているようで知らないSDG s のこと。その言葉が広まる前から、生活に密着した方法で、滋賀を良くする活動をしてきたアニコーさん。話題提供は、身近で分かりやすく、実践できる提案でした。

第4回サブ講座 2022年3月17日

2050年に向けた脱炭素社会に向けた取り組み
NPO法人木野環境 丸谷一耕さん

人間が作り出した、プラスチックや化学肥料・燃料、これに代わるものを考え出すことこそが「2050年カーボンニュートラル」。反対ではなく、具体的な提案をすることで社会を変える、と活動する丸谷さんの話を聞きました。



なんども想いを伝えあった塾生会。
グループ形成に向けて、想いを共有しながら、7回の塾生会を重ね、5人、8人、6人の3つのグループの活動が始まりました。
夢や希望を、地域プロデュースという形に変換させる発見に導いたのは、「伴走」という、一人ひとりに寄り添う、大きな力でした。

2022年1月25日・26日
活動計画書フィードバックの会
オンライン

2022年5月15日
グループ活動相談会
対面

フィードバックの会を経て活動目標を発表。まだぼんやりとしていたプラン。アドバイスと端的な意見は、これからの道しるべとなりました。
相談会では、ヒトと人が共動・協動する中で生まれるコトにも、一緒に悩み、解決の糸口探しをしてくださいました。
少しずつ前進して迎えた中間報告会。発表を終えた私たちへの言葉には、先への後押しと、向かう軌道を立て直すヒントが。
卒塾生からも、温かいエールを送っていただきました。

2022年2月26日
グループ活動目標発表会
オンライン

2022年7月10日
グループ活動中間報告会
対面



食 事

つながろう!! KUIJCulture

～東近江の食・文化を次世代へつなぐ～

「食事(くいじ)」とは、食事のことを表す滋賀の古い言葉です。

くーいー



いーじー



【メンバー】

代 表	表：藤井 誠人	(まこっちょ)
副 代 表	表：平井 あゆみ	(あゆっちょ)
会 計	計：薮 克実	(やぶこ)
編 集 委 員	員：薮 治彦	(やぶお)
記 録	録：今村 知恵	(じゃりんこ)



主な活動場所



食 事 「つなごう!! KUIJI culture」



!! !! 活動の軌跡 !! !! !!

年 月	場 所	内 容
2021年 12月	MAGATANIYA、菜の花館、だれんち	活動内容相談
	立命館大学、龍谷大学	情報収集
	県庁	活動内容相談
	琵琶湖博物館	東近江の食に関する資料を見せてもらう
	Zoom (藤井アドバイザー)	東近江地域に関することなどを学ぶ
	Zoom (卒業生: 藤岡いづみさん)	東近江地域の地産地消等、未来塾での活動について学ぶ
	Zoom	ミーティング2回
2022年 1月	東近江市役所、東近江市観光協会、 県農業農村振興事務所・農産普及課	郷土料理に携わっている人たちをご紹介いただく
	ガリ版伝承館	事務局長と面談
	野菜花、味咲館	清水芋の生産者 (山川さん) のことを教えてもらう
	Zoom (藤田アドバイザー、根木山アドバイザー)	コロナ禍における活動の方向性等の相談
	Zoom	ミーティング4回
2月	清水芋の生産者宅 (山川さん)	清水芋について教えてもらう 動画撮影
	Zoom (滋賀の郷土料理の第一人者: 堀越昌子先生)	東近江地域の郷土料理について伺う
	ピエリ守山	ミーティング
	コメダ珈琲 (イオンモール草津店)	ミーティング
	Zoom	ミーティング6回
3月	東近江市役所、東近江市観光協会、 東近江市国際交流協会、東近江まち づくりネット 他	農家民泊、聖徳太子のサポーター、ラ チーノ学院、協力機関を紹介いただく
	ガリ版伝承館	農家民泊をされている方 (古川さん) に偶然出会う
	ガリ版ホール (ちひろ)	格安でお料理を提供されている堀井 さんに会う

3月	ぶらざ三方よし、小田莉家、だれんち	活動について相談
	淡海ネットワークセンター	「仕事人と語ろう」 (卒塾した後の活動を学ぶ)
	淡海ネットワークセンター	助成金について相談
	南草津フェリエ	ゆりかご水田について (卒塾した後の活動を学ぶ)
4月	忍の里ぶらら	ふらっとまちフェス (卒塾した後の活動を学ぶ)
	Zoom	ミーティング5回
	ガリ版伝承館、黒船工房	謄写版(ガリ版)の第一人者の佐藤さんと出会う
	ぶらざ三方よし	ラチーノ学院との企画を相談
5月	Zoom(富田和美さん(同期の伯耆さんからの紹介))	奥永源寺でのリトリートツアーのご相談
	Zoom(藤田アドバイザー)	活動に関する相談会 伊吹高校での「食の甲子園大会」プロデュースの提案を受ける
	Zoom(根木山アドバイザー)	活動に関する相談会
	Zoom	ミーティング5回
6月	ぶらざ三方よし、ラチーノ学院、奥永源寺道の駅、政所茶(茶畑視察)、菜の花館、だれんち、国有林	情報収集、相談
	国有林	里守隊体験(ピザ窯、かまどでの料理試食)
	ファミレス	富田さんと顔合わせ
	栗見新田自治会館	しじみグループによるヨシの葉ちまき動画撮影
7月	ガリ版ホール、がりばん楽校、コガモカフェ、梵釈寺、蒲生コミセン	情報収集
	Zoom	ミーティング2回
	ラチーノ学院、ぶらざ三方よし	取材
	ぶらざ三方よし	相談
8月	ぶらざ三方よし	ごきげんサンデー
	古川さん宅	取材
	ラチーノ学院、ぶらざ三方よし、東近江市役所	相談、聖徳太子のサポーター申請
	ピエリ守山	ミーティング
9月	Zoom	ミーティング9回

7月	まちづくりスポット大津	助成金相談
	まちづくりネット、東近江市国際交流協会、	イベントの後援に関する相談
	ぷらざ三方よし	近江太子くんのロゴ使用承認
	淡海ネットワークセンター	しじみグループ動画披露 (活動写真等進呈)
	栗見新田自治会館	杜人映写会
	MAGATANIYA	相談
	ガリ版伝承館	堀井新次郎へのエジソンからの手紙(現物)鑑賞、ガリ版の使用 方法確認
8月	Zoom	ミーティング9回
	ガリ版伝承館、ガリ版ホール	ラチーノ学院での郷土料理試食会のメニューをガリ版印刷
	ぷらざ三方よし	ごきげんサンデー
	蒲生コミセン、がりばん楽校、梵釈寺	現地視察 (エジソンからの手紙等)
	黒船工房	ラチーノ学院でのイベント延期の報告、フリ鉄の提案をいただく
	ぷらざ三方よし	インタビュー
	淡海ネットワークセンター	進捗状況の報告、相談 (アドバイスを受ける)
9月	てんびんの里生涯学習センター	東近江や近江商人の歴史について調査
	Zoom	ミーティング4回
	近江鉄道	企画書を渡す
	東近江市役所	「ガリ版伝承館」の名称使用依頼
	近江鉄道の各駅(貴生川、日野、朝日大塚、朝日野)、フリ鉄ポイント(ガリ版伝承館周辺)	現地確認
	東近江図書館	ケンケト祭りについて調査 (佐藤さんに偶然会う)
	黒船工房	フリ鉄のポイント相談、当日の協力要請
	ガリ版ホール	ガリ版マルシェでチラシ配布、堀井さんに挨拶
	ケンケト祭りをしている地域の自治会長 (3自治会)	チラシの全戸配布の依頼
	フリ鉄ポイント	フリ鉄の練習(試し振り)
2022年度 近江鉄道線活性化 取り組みの皆さん 交流会	黒船工房	佐藤さんにチラシの配布の依頼、エジソンの手紙の展示依頼
	Zoom	ミーティング3回

	ガリ版伝承館、がもう夢工房（朝市）、 八日市文化芸術会館、マーガレット ステーション、蒲生図書館、梵釈寺	チラシの配布の依頼 等
	ガリ版伝承館周辺	道案内動画撮影、フリ鉄ポイント確認
	東近江まちづくりネット、東近江市観光協会、 八日市図書館 等	チラシの配布の依頼 等
10月		
	ガリ版伝承館、ガリ版ホール、フリ鉄ポイント、 黒船工房	「ガチャコンで郷土料理を食べにガリ版ホールへ出かけよう!」…郷土料理（ケンケト祭りで振舞われる料理）の弁当販売、フリ鉄
	ガリ版伝承館	お礼
	Zoom	ミーティング5回
11月	菜の花館（NPO愛のまちエコ倶楽部）、 マーガレットステーション	イベント協力依頼
	ぷらざ三方よし	イベント協力依頼
	ここ滋賀（東京）	ご挨拶
	八日市アピア	「近江鉄道線活性化に取り組む皆さんの交流会」に参加
	マーガレットステーション、 菜の花館（NPO愛のまちエコ倶楽部）	状況報告
	栗見新田自治会館、ぷらざ三方よし	お礼
	ガリ版ホール、黒船工房	ガリ版マルシェ お礼 等
	Zoom	ミーティング10回

その他、メールや電話、SNSなどで多数の方々とやりとりさせていただきました。



Facebook



Amebaブログ



Instagram



YouTube



Twitter



TikTok

メイン
企画!!

ガチャコンに乗って
郷土料理を食べに
ガリ版ホールへ出かけよう!

【蒲生エリア】

10月16日(日)

近江鉄道無料乗車デー



蒲生図書館の展示



東近江の地域で郷土料理を次世代につなぎ、「近江鉄道にありがとう」と感動を呼ぶ“フリ鉄”として地域の人と一緒に感謝を込めて手を振る活動をしました。

ガリ版伝承館の隣のガリ版ホールで、ちらし寿司と鰯汁をメインに「煮しめ」、「黒豆煮」、米を使って焼き上げた「幸福豆(フナ焼き)」を郷土料理のお弁当にして提供していただきました。



ヨシの葉ちまき
について学ぼう!!
【能登川エリア】
5月20日（金）



郷土料理「ヨシの葉ちまき」は、能登川の栗見新田（くりみしんでん）地域の「しじみグループ」で活動され、端午の節句にちまきを「ヨシ」の葉の新芽を使って作られています。ヨシの葉の新芽が出た頃に6人に集まっていたいただき、作り方を映像に収めました。ちまきは、ヨシの葉の風味がよく、おいしくいただきました。代表の富江さんは、ヨシの葉ちまきを30代から50代の方に継承したいとおっしゃっていました。

泥亀汁
について学ぼう!!
【五個荘エリア】
8月25日（木）



生活改善グループさんがぶらざ三方よして毎月活動されている「ごきげんサンデー」に何回かおじゃまし、「生活改善グループ」さんが販売されているお惣菜などを購入したりして交流を深めました。この日は、五個荘の伝統的な郷土料理である「泥亀汁」やグループの歴史などについてインタビューをさせていただきました。この施設ができる前から活動されているメンバーが多く、五個荘での活動はなくなっておっしゃっていました。

活動を通しての まとめ!!



私たちは、さまざまな人に東近江の地域の郷土料理をつなぐということで、活動を進めてきました。

週1~2回、東近江を訪問し、いろいろな地元の人とつながることができました。

「ヒトとヒト」「ヒトとトコロ」「ヒトとモノ」

私たちはさまざまなヒトやトコロやモノと出会いました。そして、出会った皆さんが新たな出会いをつくってくれました。奇跡的な出会いに感動しました。

そして、地域を変えるのは…

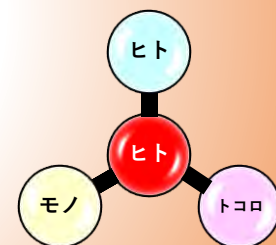
「ヨソモノ」「ワカモノ」「パカモノ」

私たちは、東近江に縁もゆかりもありませんが、何回も足を運ぶことで信頼関係を築いていきました。

地域の方たちは、皆さんポテンシャルが高く、地域を愛し、熱い思いで活動されていきました。地域の方とともに、点と点を結び、線になり、そして面になり、一つの形になりました。今までの考えを変えることは勇気がいることですが、方向付けすることで地域が変わることを学びました。

【活動の成果】

- ・地域の郷土料理を復活してもらえた。
- ・郷土料理をはじめとするさまざまな歴史的文化を広く知ってもらうきっかけをつくることができた。(政所茶、清水芋、ガリ版、近江鉄道、ケンケト祭 など)
- ・地域の人と伴走できた。
- ・地域の人がやる気になってくれた。
- ・新しいことにチャレンジしてもらえた。
- ・私たちも感動をもらえた。



Facebook、Instagram、Twitter、YouTube、TikTok、
アメーバブログの総閲覧回数 (R4. 11. 30現在) …

計 約50,000回 達成!!

ダニーさんの秘密の湖部屋



地域で場を創造したい人たち

それぞれ想いは違うけど、場づくりしたい
8人が手を組みました。

まずは、活動する場所を探さなければと活
動を開始しました。

神社に、工場、広場、探していたのは、場
所でしたが、見つけたのは困っている人た
ちと、何がしたいか決められない湖部屋メ
ンバーでした。



東近江市の鋳物の工場を視察。管理人に話を伺いました。
鋳物の歴史と技術が残っていくように、たくさんの人に使ってほしいとの
ことです。

探索記録

2021年11月 小槻神社（草津市）
2021年11月 ㈱金壽堂（東近江市）



俺にキューポラは操れない。
でも誰かにつなげたい！

山本 直幸（ダニー）
一般企業のIT屋です。地域活動で
どう貢献できるのか模索中。



草津市の神社を視察。この日はもみじ祭りをされていました。
宮司さんに事前に話を伺い、お月見の場所が作りたいと話されていました。



ミーティングはオンラインが多かったですが、じっくり話すにはやはり対面。スペース絆（守山市）はたくさん利用させていただきました。

つなげることで解決したい人たち

地域を巡りながら、つながりを必要としている人たちがいることに気づきました。

その人たちをどう支援することが、その人たちの本当の助けとなるのか？

つながるべき人につなげるのが助けになるのではないかな。

そんなことができるのは、目指すべき地域プロデューサーなのではないかな。

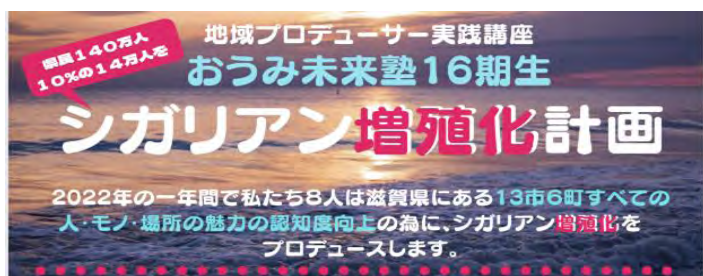
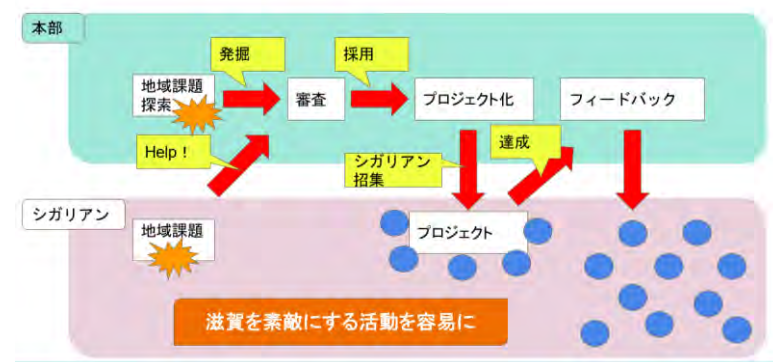
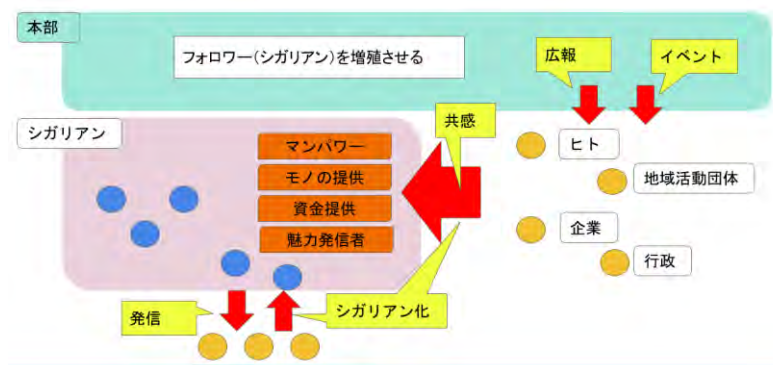
そんな地域プロデューサーは、きっと発信力とネットワークをもっているのではないかな。

そんな人には、いきなりなれないから、誰もが使える仕組みにできないかな。

つまり、シガリアンを増やすことで解決できないかな。

ところで、「シガリアン」って何？

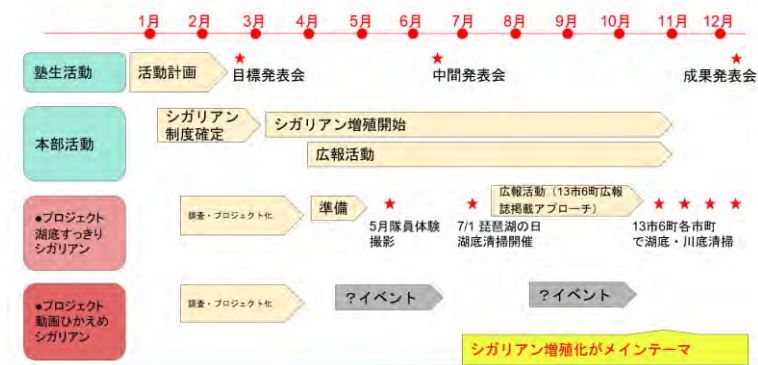
シガリアンの仕組み



みんなシガリアン！
日常会話に出るまで増やす

堀 豊（ホリックス）
地域活性化起業人として
全国活躍中

スケジュール

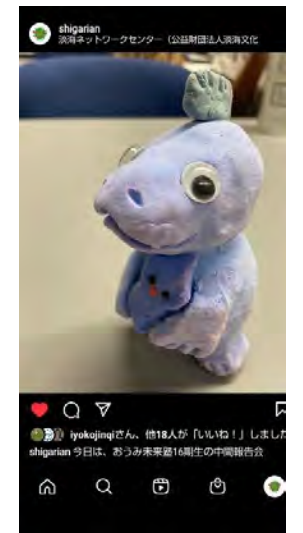
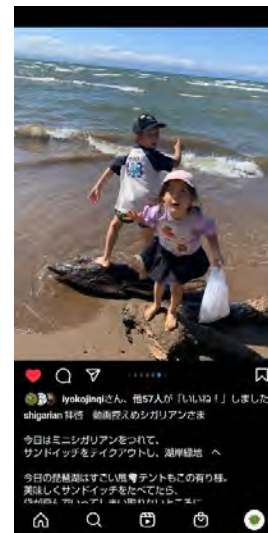
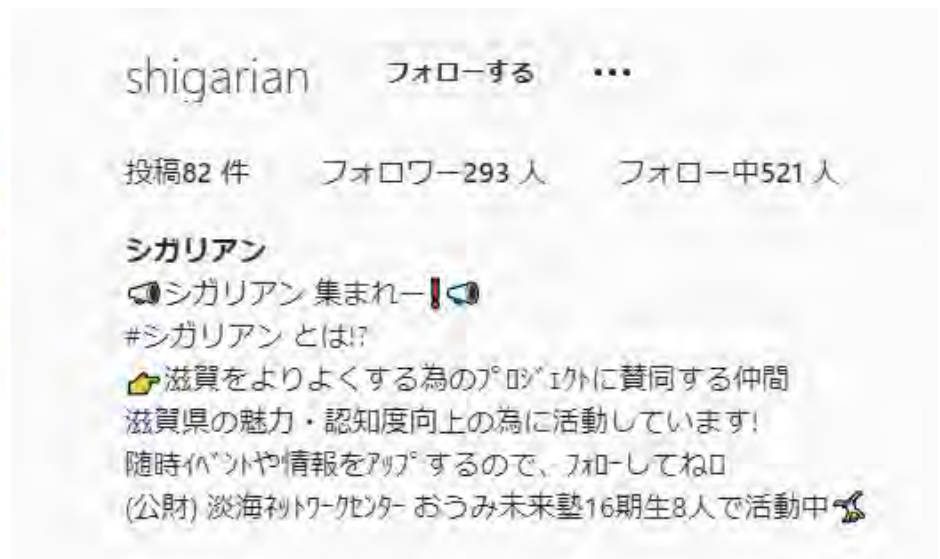


14万人のインフルエンサーを目指す人たち
インスタでシガリアンを増やすことにしました。



80回以上、投稿。
みんな見てくれとる？

伯耆 雅美 (ホーキー)
お茶をたてるひと





つなげてみることにした人たち 〈体験&やってみよう〉

体験記録

2022年3月 認定NPO法人びわこ豊穰の郷主催
びわ湖湖上清掃を体験
赤野井湾（守山市）

湖上のゴミ拾い
捨てたん誰？

不破 亨（ふわっちょ）
寄り道、回り道が得意



つなげた記録

2022年5月 海をつくる会名古屋支部主催
湖底清掃を手配協力
長命寺港（近江八幡市）

近江八幡漁業共同組合、奥井総建、
天葉の湯協力

ゴミ処分、回収手配：近江八幡市役所
船手配：近江八幡漁業共同組合
シャワー室貸出：天葉の湯
※京都新聞に取材いただいた



シガリアンの船出じゃ！
冒険が始まるで

吉竹 真也（たけっちょ）
何でもやりたがり！時間
を求めて銀行から転職し
た自由奔放保険屋 F P





つなげてみることにした人たち 〈湖底すっきりシガリアン〉

つなげた記録

2022年7月 ダニーさんの秘密の湖部屋主催
びわ湖掃除&演奏会 実施
赤野井湾（守山市）

- ・ダイバーによる湖底清掃（赤野井湾2か所）
担当：海をつくる会名古屋支部
- ・胴長部隊による湖底清掃
担当：希望者&未来塾関係者 ほか
- ・湖岸清掃
担当：認定NPO法人びわこ豊穰の郷
ういんどあんさんぶる樂楽
子どもたち ほか
- ・ゴミの洗い出し、分別
担当：もりやま作業所
- ・船による移送
担当：玉津小津漁業協同組合
- ・演奏会
担当：ういんどあんさんぶる樂楽
- ・ブラックボックス ・七夕飾りとアンケート
担当：湖部屋チーム
- ・湖底ゴミ展示
担当：海をつくる会名古屋支部&湖部屋チーム
- ・動画撮影
担当：やぶおさん
https://youtu.be/t_3nIcVPfN0
- ・もりやま作業所よりお菓子のプレゼント
- ・後援：守山市



シガリアン
無限の可能性
秘めている！

中畑 奈緒
（なおちゃん）
地域とつながりたい
ワーママ





つなげていくための種を創る人たち



びわ湖のヨシを使った
ブーブー笛

つなげて応援した記録

2022年10月 ういんどあんさんぶる樂樂より依頼
樂器造りワークショップ受託
「らくらく工房」実施
膳所公園 シェアハピ!?マルシェ（大津市）



バードコール

2022年10月　くんちゃんより依頼
 バルーンアートによる盛り上げ受託
 「バルーンアート配布」実施
 ステージ司会進行担当
 高穴穂神社 穴太deマルシェ（大津市）



みんな僕のために盛り上がってくれて
ありがとう！ロッケンロー

竹平 陽 (たけちゃん)

やりたいことを、やりたいときに、やりたいただけやる。
やるべきことは、2時間の通学時間でなんとかする(笑)



バルーンでタコ

つながったその後について考える人たち

地域の人を誘って、
湖岸＆湖底清掃を実施しました。

シガリアンした記録



人を頼るのも大事！
あるつながりはどんどん
利用したらいい。

金崎 いよ子（いよっちょ）

環境活動を始めて26年。自然界に無いゴミを
見つけるのが上手になりました。

2022年11月 ダニーさんの秘密の湖部屋主催

助成金を得て、湖底すっきりシガリアン
湖岸清掃、胴長で湖底清掃、交流会を実施
認定NPO法人びわこ豊穰の郷協力
三津屋町自治会協力
彦根市ゴミ袋・ゴミ処理協力
（県下一斉清掃運動にもつながる）

湖岸緑地南三ツ谷・三津屋（彦根市）





気が付けば「動画ひかえめシガリアン」

子どもたちが家で動画ばかり見ずに、外で滋賀を感じながら、たくさん遊んでほしい！

今後に向けて考える人たち

びわこ豊穡の郷さんに武者修行します！！ ダニー

さまざまな人と出会い、縁を増やしていく！ たけちゃん

地域プロデューサーの目線を持ちつつ、プレイヤーとしても色々な活動に関わりたい！
たけっちょ

日本の地方の多くの課題を全てチャンスと思えば面白いので、人生に迷った人たちを“いろんなやりたいを見つける旅”をコーディネートします！
ホリックス

一人では何もできない。みんなで力を合わせて地域のためにより良くする事に挑戦します。
いよっちょ

こどもも大人も笑顔で過ごせる居場所づくりをしながら、更にシガリアン仲間を増やしていきたい！
なおちゃん

びわ湖×シガリアンはいろいろできそう。
子どもをプロデュースして、地域活動もいいな。 ふわっちょ

お陰様で仲間ができました。鬱明け 発達障害持ちの私には清水の舞台から飛び降りる気持ちでしたが、イベントにお誘いいただき、お茶を点てる機会が増えました。この縁を膨らませて、社会貢献しながら、お茶の楽しさを伝え続けていきたいと思います。
ホーキー

子どもたちは、自然に次のシガリアンを楽しみにしてる



びわよしのぼり
(ポリさん)
びわ湖の固有種。
ハゼの仲間。



シガリアン増殖化計画はゆっくり進めよう

Action
&
continue

創りたい！広めたい！
手のひらサイズの
SDGs

Petit Refrain

私が暮らす小さな社会
そこから生まれる小さな循環
つながってつながって
色んな花を咲かせよう



代 表◆越後 美穂 (近江八幡市)
副代表◆香田 雅子 (大津市)
副代表◆澤井 二三夫 (東近江市)
会 計◆伊東 紅仁子 (大津市)
連 絡◆木村 匡孝 (大津市)
編 集◆青地 路子 (栗東市)

モノの循環から生まれる
捨てない暮らし

暮らすまちの
人・文化・自然を
いつまでも

2021年11月6日

2021年12月5日

ファブリカ村（東近江市）

北川陽子さん

20年以上かけて発信し続け、ようやくプロセスエコノミーが追い付いてきた。ファブリカ村は売り場ではなく、感性価値の伝え場。

リサイクル、リユースでゴミ削減、アップサイクルから新たな価値の発見につなげる提案をしていきたい。

たくさんのヒントの中でも、「伝え場」という表現が響いた。

「こんな繋がり、伝え方を見つけたよ」そんな身近なことを発信することを活動にしよう、と想いが固まった。

そして、ここでグループの名前が小さな循環という意味の「Petit Refrain（プチルフラン）」に決まった。

「里山のみどり」というグループ名で私たちはスタートした。

身近なことから「SDGs」につなげたい！と、衣住食のさまざまな視点から、ヒト・モノ・コトを巻き込むための、できること探しが始まった。

行って、聴いて、見て、発想を飛躍させることから、発見があるはず、と確信。そのヒントを得るため、つながりをたよりに出かけたことは、貴重な時間。



プチルフラン＝訳すると「小さな循環」。言葉、それを表す葉と花のイラストを名刺に添え、各プロジェクトに向けて活動開始。



2022年1月8日

循環型社会創造研究所 えこら（栗東市）

藤田アニコーさん

物々交換会、エコツアー、廃油回収と、モノ由来のエコ活動だけでなく、ヒト・コトにも焦点を当て、「習慣にしていける活動」を県内で地域に密着し提案・実践してきた。

日本にあるさまざまな「道」。武道・茶道、すべてに共通するのは「結果ではなく、行く道中、どうやって辿り着いたか」。この「道」の心を大切にしてほしい。

地域を良くしながら利益につなげることで、続けていける。人が幸せに過ごし、周りのことを考えて暮らすと、環境もよくなっていく。

これからPetit Refrainでも始める、交換会や穴太での企画に、とても参考になった。趣旨に気づいてもらえるための入り口、スポンサー探しなど、理解・賛同を得るための、キーワードも見つかった。



2022年1月26日

活動計画フィードバック

アドバイスと、今後の参考になる人物・団体の紹介を得た。

「背伸びしない、無理しない」「楽しそうな活動を続けることで共感を生み仲間が増える」などの言葉も響いた。

2022年2月23日

すっきりマーケット

ぶつぶつ交換会 参加（栗東市）

各家庭から持ち寄られたものが、開始直後瞬く間に新たな家庭へもらわれていった。持ち込みの有無に関わらず、参加費が必要。持ち帰りの限度数の定めは無し。

単純に、不要品をゴミとして処分しないで済むだけでなく、参加者同士の交流も生まれていた。いずれ不要になる時まで、大切に使うという意識にもつながると感じた。



2022年6月

滋賀グリーン活動ネットワーク会員登録

2022年4月10日

胡径庵（大津市）

田中胡径さん

大津絵への想いを聞き、穴太周辺のイラストマップを川村和彦さんと共同制作するに至った話を聞いた。

「大事にされるものを作るのが役目」という言葉から、大津絵だけでなく、地域の歴史文化を誰もが気軽に触れる機会や場づくりをしたいという胡径さんの想いを穴太の企画で実現させたいと、目標ができた。



2022年2月26日

目標発表会

自然な流れで決まっていた、「メンバーの住む各地域でプロジェクトを企画する」活動に、新たなカタチ！とエールをいただいた。

「5つをどのように融合していくか」「見せ方・見せる場に工夫」「味方を増やし、思いを伝え、相手の声もよく聞く」などのアドバイスから目指すものが明確になった。

2022年3月26日

もったいないフェス 視察（甲賀市 土山）

Reduce、Reuse、Recycle、Refuseの4Rが凝縮されていた。

イベント内容、ワークショップ、食事の提供や商品など、来場の目的・来場者の年齢層ははさまざまだった。

趣旨の理解にたどり着かせるために必要な条件は、まずは来場につなげる魅力的な企画・シェア力などにあると感じた。

2022年7月10日

中間報告会

これまでの報告と、今後の計画を発表。卒業生からも意見をもらい、個々のプランを実行する点、肩肘張らない活動に評価を得た。

穴太の企画について、「集落史を保存・集積し、滋賀レベルへ育ててほしい」という言葉に、改めてこの活動期間の集大成にしたいという思いが強くなった。

2022年9月12日

相談会

個々の居住する地域で各自が開催していく上で、企画を共有する、グループで確認し合うという作業を重ねるように、と助言をもらえた。

他の負担になると思わずに共有する。それが、自分では気づかない困りごとに気づいてもらえることにつながる。新たなアイデアも期待できると確信した。

資金調達

お金のこと。生々しい話。
少し欲張ったいくつかのプロジェクトを運営するためには、資金が必要という考えに。
まだ、学びの時期で、個々に企画を練っていた時、助成金に挑戦してみない？という提案が出た。
結果、2つの採択を受けることができた。
得たものは、資金だけではなく、「自信」。
企画書や会則を作成するための、自分たちのプランとビジョンを文字で表現するということは、「やるべきコト」を明確にもしてくれた。
団体からの共感と賛同は自信となり、同時に後戻りできない状況は私たちの背中を押し続けてくれた。

収入	
助成金おうみ未来塾	50,000
助成金コープしが	100,000
助成金あづチャレ	30,000
その他(参加費)	11,200
その他（自治会寄付など）	92,914
合計	284,114
支出	
ヒト 謝礼など	99,147
モノ 備品・景品など	126,773
コト 保険・会場費など	18,192
繰り越し	40,002
合計	284,114

広報活動

できるコトは、できるかぎり自分たちの手で。
スタンプを自作したり、チラシも各メンバーがそれぞれ制作。思い入れのある、納得のいくものづくりにつながった。

Image
& Logo



名刺の手書きイラストにプラスして、チラシや会場で一目でPetit Refrainとわかるロゴを制作。デザイナーと細かい色まで何度もやりとりして納得のいくデザインに。
共通するのは、くるくると循環し、つながるイメージ。どちらも葉っぱがモチーフ。

S N S



FacebookとInstagramのアカウントを取得。
ホームページ立ち上げ案も出たが、助成金はまず目の前の企画に使うこと、更新作業の自信がないこともあり、一旦白紙に。実際、SNSの投稿も数回しか行えず、今後は日々のアイデアやオープン企画の告知など、全員で気軽に更新できるように継続していきたい。



呼びかけで集まった、ハギレに押して作ったフラッグは、各会場を明るく演出。



学びの時間を重ね、想いを何度も話し、目指すものが見つかった。約40回の学びと会話の時間から生まれたのは、「全員でひとつ」とは少し違って、「それぞれが住むまちでゴールを目指す」カタチ。各地で「プチルフランする」こと。ノウハウを蓄積し、実験と検証をする「トライ&エラー」から得た発見を、気づきを、穴太に集結させた。

Petit Refrain Goals

- モノ◆地域コミュニティで使わなくなったモノを使いたい人へ循環させる
- ヒト◆モノの循環を住民同士の交流・地域の情報交換の活性化へつなぐ
- コト◆人の交流を地域の文化・自然の再発見につなぎ、地域への関心・環境保全意識を育む

PROJECT

1

プチルフランマーケットin安土

2022年7月9日

@安土コミュニティセンター
モノの循環から人と人とのつながりをつくりたい



対象・・・安土町住民
内容・・・不要品を持ち寄り、来場者が欲しいものを持ち帰るマーケット。
参加費は500円。
・ワークショップ（講師を招いてプラスチックゴミをアップサイクル）
・展示（Petit Refrainの紹介、アップサイクル品とコンポストの展示で環境に優しい取組を紹介）

予想していた来場者数（50人）には満たなかった。事後アンケートでは継続定期開催希望は100%。趣旨が理解できた。人のつながりを感じることができたと回答した人も90%を超えた。穏やかな空気感の中で開催することができた。モノの循環から人と人とのつながりが生まれること、モノを大切にすること、カタチを変えて大切なモノになることを知ってもらうという目的は果たせた。



安土学区まちづくり協議会の協力を得て、安土地区の全戸へチラシ配布したが、来場のきっかけにはならなかった。SNSでの発信も不十分で、関心を集めることができなかった。地域への周知の工夫が必要。

「モノを循環させる」ということは良い活動だ、という認識を、行動に移せるように、ハードルをいかに下げるか。参加することで意識付けにつなげ、生活の中に取り入れてもらえる「プチルフラン」をどう構築するか。賛同者を増やししながら仕組みづくりを広めるために、ニーズに応じた内容を盛り込みつつ継続開催したい。

PROJECT

2

過去を未来へつなぐ



この調査は、穴太地域で営まれていた水車精米事業が昭和10年の水害で撤退に至ったという郷土史を調べることから始まった。近年、防災に郷土史を活用する動きも活発化している。

現在は、治水が進み何事もなく流れる比叡山からの豊かな水は、かつて再生可能エネルギーとしても利用されていた。



消防庁が各地の言い伝えを、国土地理院が災害伝承碑を収集しWEB公開している。滋賀県でも、水害情報発信サイトで水害に関する伝承と言い伝えを収集し公開。このことから、災害史を含む郷土史は地域の価値ある財産だという認識が高まるよう、水害調査を継続中。この成果は書籍として発表予定。今後さらに防災意識の啓発として展開していきたい。

PROJECT
3

限りある資源の小さな循環創造活動

2022年7月17日

@東近江市大沢町

家にある使わなくなったモノをご近所さん同士で循環させよう



対象・・・自治会住民
内容・・・事前配布したブルーシートを各家庭の軒先に広げ、誰かに使ってもらえそうなモノを並べる。
60軒ほどの在所を歩くことも目的。自治会内に3か所のポイントを設置しスタンプラリーも実施。

おうみ未来塾関係者3人の参加と7軒からの出品があった。これまでに無い試みに、集落の10%の参加という結果は、成功といえる。前向きな意見も得ることができた。種まきの前々段階、土起こしが終わった。

顔見知り故の抵抗感を取り除くこと、地域住民が本当に困っていること、もったいないと思っていることの解決につながる取り組み内容にしていくことが重要。そこから「資源の有効活用」というPetit Refrainのテーマの理解につながると感じた。

普段から懇意にしているとは言え、7軒の出品協力があつたことは、大変嬉しかった。「地域住民の必要とすること」「地域のつながり」「自然環境保全」をクロスオーバーできる小さな活動に、継続性をもって取り組んでいきたい。



PROJECT
4

ティアラを楽しく♪くるくる交換会

2022年8月21日

@大津市本宮 とあるマンションの集会所
交換会から広げたい、住民の力を持ち寄れるネットワーク



対象・・・マンション住民
内容・・・住人同士で不要なモノを使いたい人へ循環させる。食品以外の生活雑貨を自由に展示、使いたいモノがあれば自由に持ち帰る。残ったモノは出品者が持ち帰る。モノを循環させ生かすと同時に住人同士の交流の場になることが狙い。

自治会がなく、築26年目の初イベントに58世帯中14世帯が参加。目標20%参加率を達成。事後アンケートでは継続開催の要望が多く寄せられた。新たなアイデアも出て「モノの循環+住人交流」の潜在的なニーズがあると感じた。参加者に喜んでもらえたことはスタッフの充実感につながり、今後への自信となった。

男性、子育て世帯、高齢者世帯の参加率UPのために何が必要か、さらなる工夫が必要。住民の特技や専門性を生かせるようなネットワークの構築と、予算を得るため理事会・管理組合と連携を深めたい。

協力者は入居当初のママ友とその夫。「イベントをとおしてプチルフランをを広げる」ことを理解してもらうように働きかけ、最初に目的が共有できた。今後の企画案も出ており、内容により色々な人に活躍してもらえるようにしていきたい。「ここに住んで楽しい、安心、良かった」と思う人が増えることが、マンションを大切に、全体の住みやすさに繋がると思う。プロデュース力を実践の中で高め、若い世代へも繋いでいきたい。



@大津市穴太 高穴穂神社

みんなのしたいことを実現 みんなの想いは伝わって、そして笑顔へ

内容・・・穴太衆石積み舞台ライブ 神楽殿お茶席

紹介・展示【地域防災の取組（防災コンテナの解放）、神社の歴史、穴太在住者の技と作品、プチルフランの取組】

子どもお店屋さん【自ら制作したものを販売】

ワークショップ【木端・漂流物を使う制作、寄せ植え】

花苗交換とビワなどの自然治癒の知恵情報の発信

絵本のくるくる交換

スタンプラリー、屋台

御朱印・お守りの販売

コロナ禍で地域の祭りも中止。希薄になった交流を復活させ、高穴穂神社の現状を知ってもらいたい。

この想いに共感し、集まったのは30代から70代の幅広い年齢層の地域協力者。毎週日曜日のミーティングでは、意見が飛び交い、アイデアが溢れた。

神社の氏子や自治会役員からもあたたかい協力を得られた。社務所の扉を毎週開けることで建物へ風を通し、清掃・整頓・補修、設備の確認にもつながった。

穴太衆石積み完成式典で購入された緋毛氈をお茶席の敷物に再利用、社務所で見つけた神社印とプチルフランのスタンプを家庭で余っていた布に押したフラッグは、会場に彩りを添えた。「在るもの」を活用し、手作りにこだわった結果、知恵や技術の共有もできた。



「みんなに優しく！」をキーワードに場面ごとで負担を減らし、スタッフも楽しめる工夫をした。公共交通機関での来場を呼びかけ、ゴミ箱の設置を止め持ち帰りスタイルに。スタッフ、協力者に当日利用できる金券を配布し、マルシェを楽しんでもらった。

動物入場不可という参加ルールの共有不足（対来場者、対スタッフ）。

200人を想定していた来場者数は600人超と予想以上で、飲食物が早々に完売。

午前中に企画が集中し、来場者も同様に集中した。

子ども向けブースは始終参加が続き、担当者は休憩ができなかった。

各担当ブースのパイプ役となるスタッフの増員で、全体を連携させた運営の必要性を感じた。

マルシェ開催の一番の目的は神社の維持と森の保全活動への「人つなぎ」。

今後も単なるマルシェとならず、趣旨がずれない企画にすることを心掛ける。

自主的な個人持ち出しを減らし収入を得るために販売も視野に入れ資金調達も考慮、継続実施を目指し、若い世帯や穴太地域の人々の繋がりを増やし、地域資源を守るような活動を続けたい。

@近江八幡市安土町 百間堀ポンプ場跡
ヒトとヒト、モノとモノでコトにつながった
奇跡の一日

かつて田畑に送水する役割を担ったポンプ場跡地を次世代に残し、住民の憩える場所に整備し活用したい整備の会と、マルシェを開催したいとあづチャレでプレゼンした男性をつなぎ、開催となった。Petit Refrainは子ども用品のフリマ・物々交換会ブースとして参加。



開催場所を会場近くのビニールハウス中心に開催。多世代の来場者が訪れ、大盛況となった。地元の食材や郷土料理の「ふな焼き」を生き生きと販売する地元の人達と子連れの親子が楽しげに会話する様子が見られた。「地域交流」と「マルシェ開催」のふたつの夢が実現した。どちらか一方だけでは開催できなかった、ヒトとヒトをつなぐことで新たなコミュニティの場が誕生したと感じた。

Keep Petit-refraining

成功失敗にこだわらず、結果を検証し改善や工夫につなげたい。ゴールのカタチは違っていても、それぞれのまちのために「プチルフラン（小さな循環）」を実行するという想いはひとつ。

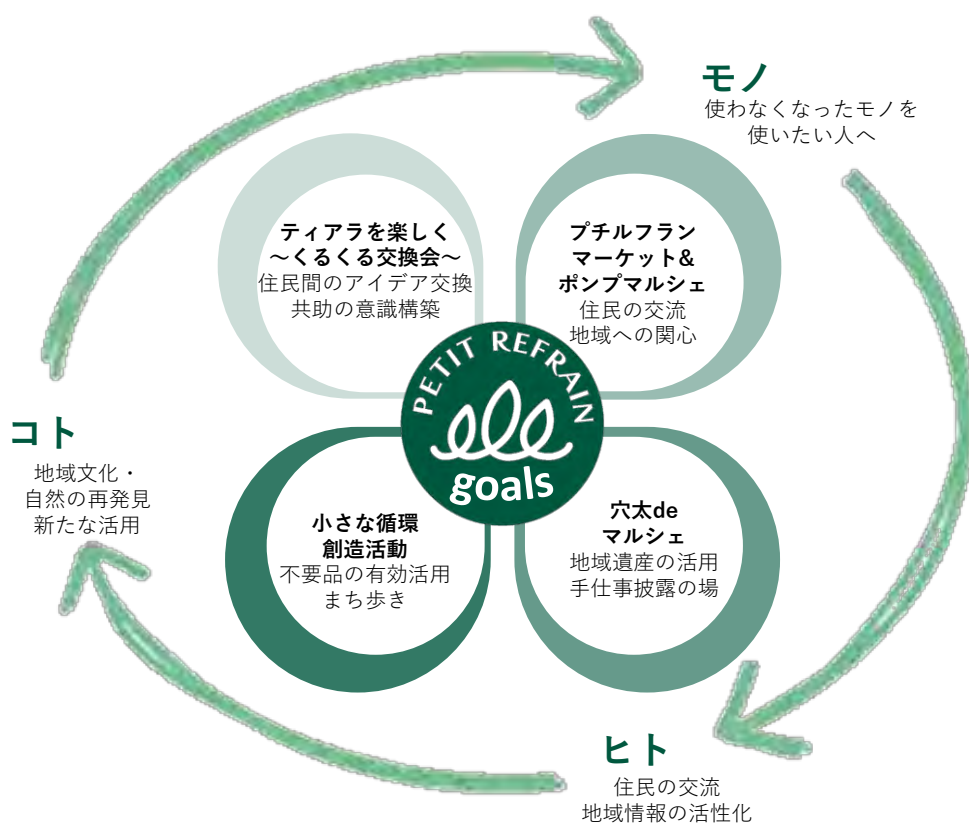
地域住民のアクションを呼び起こし、楽しくて簡単なSDGsを広めるという活動をミッションとして、自分たちの住むまちで活動したPetit Refrain。

地域をプロデュースするためには、まずは自分をプロデュースし、そしてグループをプロデュースする。Petit Refrainの活動のカタチだからこそ見えた「聞く」「発する」ことの大切さ。グループ内の「困りごと」解決の重要さ。

このグループ活動からたくさんのことを学びました。

まちの人たちの想いに共感しながら、新たな輪に広げていくネットワークワーキング力を得ることもできたと感じています。

今後は更に人の輪と輪をつなぎ、「Petit Refrain」だからこそ取り組める活動の可能性を事業の魅力にして、課題を一つひとつクリアしながらヒト、モノ、コトをつなぎ楽しく継続していきます。



この活動を支えてくださった、すべての人に感謝の気持ちを込めて、Petit Refrainの成果報告とします。ありがとうございました。

おうみ未来塾 第16期 成果報告会・卒塾式 2022年12月10日

2021年9月に入塾し、19人誰も欠けることなく、この日を迎えました。
2022年2月の目標発表会、7月の中間報告会
そして9月の相談会を経て、グループ活動を報告しました。

Petit Refrain

▶交流から共助に至る、重たくない環境をテーマにした活動で、プチルファンが湖国を変える！
地域を巻き込んだ6つのスマートな企画の成功と、ロゴやフラッグのデザイン力も高く評価する。

地場で活動という勇気と新しい解決方法で、マネジメントと組織の在り方を次期へ。

▶個別テーマの行く先は、1つの大きなテーマとなるように、これからも、問題定義に+αして継続していきます！



フラッグを飾り、手づくりのロゴTシャツで発表。

ダニーさんの秘密の湖部屋

▶地域プロデューサーとは？

その命題を深める期間となったのでは？最後にシガリアンの定義が見えてきた。まだまだ「腑に落ちない」が、メンバーの多様性に期待。

▶自分たちの時間を割いてでも見たいのが「子どもの笑顔」。それが何よりも価値。「楽しい」にフォーカスして見えた課題は、根本的解決に向かえなかったこと。これから、物語を作ります。



オリジナルキャラクターの「ボリさん」は9人目の仲間。

つながろう!!KUIJI Culture

▶メインテーマのもと、地域と食べ物をリンク。「次世代につなぐ」の実現には至らなかったが、この活動の原動力となった「やりぬく力」と「ツキ」で得た、地域との関係性は称賛に値する。

フリ鉄で感じた感動と、与えた元気でさらなるコミュニティビルディングを。

▶たまたまが重なったことも力のひとつ。迎えてくれる人たちとの関わりをこれからも大切にします。



充実感いっぱい5人。さあ発表です！

▶塾長・アドバイザーより ▶塾生より

成果報告を終え、いよいよ卒塾の時が。
塾長から一人ひとりに卒塾証書を授与いただきました。



卒塾生代表のことばで、これまでの感謝の気持ちと、今日が新たなスタートの日となる16期生全員の気持ちを代弁してくれたのは、たけちゃん。

“地域プロデューサー”とは何か。活動が進むにつれてあれ？これってプレイヤーの仕事？ディレクター？なんだろう？と悩みながらも、活動をとおして出会ったすべての人からの知識と体験、今自分が持つリソースを最大限に使い、今ここでしかできないことを、経験できました。

これから真のプロデューサーとなるために、活動を続けて、卒塾生として、積極的に17期生以降のサポートもしていきたいと考えています。



この日、北村塾長、岡崎アドバイザー、藤井アドバイザーも、おうみ未来塾を卒業されました。根木山アドバイザー、藤田アドバイザーとともに、これまでの熱い想いと、私たちへの温かいエールを送っていただきました。
この日は多くの卒塾生もかけつけ、3人の退任を惜しむ声、改めての感謝の声も寄せられました。

アドバイザー 岡崎昌之

法政大学名誉教授



CityとUrban

16期生の皆さん卒業おめでとうございます。しかも19名、1名の脱落もなく全員揃っての卒業でした。

私はこのことは初年度から予想していました。2021年11月に高島市針江地区での第4回本講座のときに気が付いていました。講義のときにも話しましたが、その本講座の際に、参加塾生のなかで最も若い竹平さんが、直前に旅行に行った際のお土産をみんなに配ったのです。それはよく気の利く若い人がいるといった感覚を越えて、彼よりも年配の塾生の皆さんが、16期塾生全体にきちんと目配りをされていることが、彼の行動に繋がったのだと感じたのです。お陰で私もお土産のお相伴に預かりました。

日本の地域社会や集落は、こうした互いへの気遣いや思いやりで長く維持されてきました。どこかと隣家の居間に上がり込むのではなく、かといって無視や無関心ではない。適度の間合いを保ちつつ、互いの関係性を維持してきたのです。

都市を英語にするとcityとurbanの二つの単語がでできます。cityは沢山の人や建物が密集しているところという意味ですがurbanには丁寧とか磨きのかかった、という意味合いが含まれています。多数の人が群れ住み、無責任な垂れ流しの生活をするのではなく、自覚を持って磨きのかかった丁寧な暮らしが、本来の生活の場だということを示唆しているのだと思います。

そういえば以前、京都の町家の暮らしのことを聞きました。町家では朝起きて家の前の道を掃くとき、間口から互いに1尺（約30センチ）ずつ踏み込んで、両隣の家の前を掃くのだということです。まさにurbanな暮らしが息づいてきたのです。

16期生の皆さんは最終発表会でも楽しそうに、明るくやっておられたのが印象的でした。そうです。まちづくりはATMです。いえ銀行のATMではありません。まちづくりはあかるく、たのしく、まえむきにのATMです。来る人拒まず去る人追わず、こんにちの元気とさようならの勇気を持ちつつ、まちづくりを進めていきましょう。

アドバイザー 藤井絢子

元NPO法人 菜の花プロジェクトネットワーク 代表



地域に“未来可能性”のナラティブ(物語)を

私も、第16期未来塾生の皆さんと一緒に卒業です。1999年「おうみ未来塾」の発足から、361名の未来塾生と歩みを共にして来た事になります。

発足当時は、地球温暖化、コロナパンデミック、ロシア・ウクライナ戦争のシビアさはありませんでした。でも、琵琶湖は相変わらず課題を抱えていましたし、“地域”が壊れる、という思いがありました。

何とか、地域自立の形成を、皆と楽しみながら、でも強い意志を持って、と1998年「菜の花プロジェクト」をスタート。それまでの長年にわたる琵琶湖周辺での多様な活動をベースに、繋ぎ、広めたかった。地域・社会をどう分かりやすく“未来可能性”でデザインし、伝えるか？キーコンセプトは“食とエネルギーの地域自立”とおき、美しく(おしゃれで)、ワクワク(と同時に、農業・農村への気配りを込めて)するムーブメントが、「菜の花プロジェクト」のデザイン。以後、大きな共感を得て、全国へ、海外へと広がりを見せていっています。

16期生の三つのグループPetit Refrain、つなごう!!^食KUJII culture、ダニーさんの秘密の湖部屋。

いずれも、この短期間に足を運び、議論を重ね、時に投げ出す一歩手前の状況にありながら、成果報告会の発表を拝見し、正直ホッとしました。

でもムーブメントのスタートに立ったところですよ。つなげ、広げる事でホンマモノになる。

かつて、國松知事時代、21世紀を迎えるにあたり、21世紀記念事業ムーブメント滋賀を展開した経験があります。選ばれた225の活動です。「水とくらし」「水と技」「水と土地」「水と未来世代」のテーマで。

16期卒業生の皆さんにも、琵琶湖を舞台に、これからの地域をデザインしてほしいと思います。

アドバイザー 根木山恒平

おうみ未来塾 7 期卒塾生/
NPO 法人碧いびわ湖



私を突き動かす力が地域を動かす

16期生の皆さん、ご卒塾おめでとうございます！1年4か月にわたる現役塾生としての学びとグループでの実践活動、お疲れさまでした。

Petit Refrainの実践は、塾生が自らの生活地域において新たなアクションを起こすという点で、たいへん勇気ある活動で4つの地域での4様の実践のひとつひとつに得難いノウハウが得られました。また地域を超えて実践をサポートする塾生の役割の重要性にも気づかされました。

ダニーさんの秘密の湖部屋の実践からは、仕事や家事に忙しい現役世代が、それでもなお地域で活動することの価値/Valueが何なのか？またそのために必要な活動スタイルとはどんなものか？を新たに見出すものでした。熱く語り合うグループの規範を生み出したことも貴重でした。

つなごう!!^{食事}KUJII cultureの活動は、地域にアイデアをもって入り活動することの困難さという所与の状況（時代性）を顕在化させつつ、その中で必要となる「やりぬく力/GRIT」を見事に獲得/発揮されました。

滋賀県内には、過去にせっけん運動や抱きしめてBIWAKOをはじめ奇跡のような住民活動の歴史がありますが、時代はくだり現在はとても困難な時代状況にあると思います。そうした中では社会課題を客観的に把握、分析すれば即解決されることばかりではありません。むしろ先行き不確かな状況の中で、ひとりひとりが発揮する直感的/主観的な行動こそが、人びとの共感を呼び、状況を動かす大きな力になると思います。

16期生の皆さんは、そうした現在の地域活動において求められるノウハウを、自らの実践を通じて、見事に獲得されました。ぜひ、その知見を今後入塾されてくる17期以降の塾生にもつないでいただき、16期を含めた歴代の卒塾生361名の力を合わせ、ともに滋賀県内の地域活動を盛り上げていきましょう。

アドバイザー 藤田知丈

おうみ未来塾 7 期卒塾生/
暮らシフト研究所代表



地域プロデューサーは十人十色

16期生の皆さん、改めて卒塾おめでとうございます！

私は、おうみ未来塾 7 期生として15年前に卒塾して以来、未来塾で得た経験・学び・自信・人脈を土台に、自分なりに地域プロデュース活動を継続してきました。この1年4か月は、アドバイザーという立場で、再び未来塾で学び育つ機会に恵まれました。

16期生は全員個性豊かで意識も意欲も高く、長引くコロナ禍で塾生同士や地域との関わり方が制限される中、さまざまなトラブルや困難を抱えながらも、むしろそれらをバネに新たな着想で未来塾の新境地を見事に切り拓いてくださったと感じています。

未来塾は、「育てる」ではなく「育つ」塾。私もアドバイザー1年生として、どこまで口や手を出すべきか、どんな問いかけをすれば学びや育ちにつながるか…実践と試行錯誤を重ねながら、一緒に大いに学ばせていただきました。未来塾ではグループ活動の成果に目が行きがちですが、なるべく一人ひとりの塾生の「育ち」に注目して、微力ながら寄り添ってきました。その意味で、最後まで一人の脱落者も出すことなく、それぞれの心の内に地域プロデューサー魂が強く育ったことを心から誇りに思います。

「地域プロデューサーとは何か？」の命題に、決まった正解はありません。卒塾生の数だけ答えがあっていいし、それぞれが生涯をかけてそれなりの答えを追い求め続けていくことが、私も含めて卒塾生に課せられた永遠の宿題だと思っています。皆さんが、それぞれの現場で、これからも楽しく仲良く素敵な活動を続けていかれることを心から祈っています。

16期生の卒塾式で、開塾以来ずっとおうみ未来塾を支え続けてくださった北村塾長はじめ3名のアドバイザーも卒業されました。後を継ぐ者として、その重責を改めて噛み締めています。今後は、卒塾生同士がもっとつながりを強め、現役生と関わる機会も増やして、「オール未来塾」体制で、地域プロデューサーが育つ滋賀の風土づくりに貢献できればと願っています。



南圭子

淡海ネットワーク
センター 事務局長

おうみ未来塾16期の皆さん、卒塾おめでございます。1年4か月にわたる活動、お疲れさまでした。

私は、2022年の4月に淡海ネットワークセンターに着任したので、最初に塾生の皆さんにお会いしたのは5月に開催された相談会でした。3つのグループのそれぞれの活動を聞きながら、悩みながらも明るく前向きに取り組まれる姿勢にとても強いパワーを感じ、この先どんな風になっていくのだろうとワクワクした気持ちになったことを思い出します。

16期の皆さんの活動はコロナ禍でもあったため、企画した取組がうまく

進まなかったり、また、仕事、子育てなどとの両立などの点でもご苦労も多かったのかなと思いますが、グループ活動は着実に進化を遂げ、12月の力強い成果発表へとつながり、誰一人欠けることなく、19人全員の卒塾となりました。

今後は、どうかこのおうみ未来塾での学び、出会いを大切にしながら、それぞれの地域で活躍され、滋賀県をますます元気にしてくださることを心からお祈りいたします。頑張ってください。

また、卒塾生として、これからもおうみ未来塾を見守り、応援してくださいね。

16期生19人の顔

ここに来なければ会うことのできなかった、個性豊かな、かけがえのない19人の仲間。

20代から60代、初めの塾生会で決めたニックネームで呼び合い、年齢もグループも何もかも超えて複雑に絡み合い、支え合い走り抜けました。

その1年と4か月を一文字で表現しました。



伊東 紅仁子
Ito
Kuniko
(くんちゃん)

結



今村 知恵
Imamura
Chie
(じゃりんこ)

絆



越後 美穂
Echigo
Miho
(えっちゃん)

安



金崎 いよ子
Kanezaki
Iyoko
(いよっちょ)

繋



木村 匡孝
Kimura
Masataka
(きむ)

悟



香田 雅子
Koda
Masako
(マコさん)

気



澤井 二三夫
Sawai
Fumio
(ふみさん)

循



竹平 陽
Takehira
Hinata
(たけちゃん)

多



中畑 奈緒
Nakahata
Nao
(なおちゃん)

楽

おうみ未来塾16期の皆さん、ご卒塾おめでとうございます。

1年4か月、笑ったり、悩んだり、感動したり、そして何よりもたくさん「地域プロデューサーとは？」について話し合いをされてきました。プロデューサーとプレーヤーの違い？コロナ禍の中で地域に入るって、どうするの？その答えを導き出すプロセスもおうみ未来塾の学びの1つだったように思います。

コロナで社会が大きくが変わり、先輩塾生と同じように取り組むのは難しく、そんな状況でもZOOMをフル活用し、リアルで会うことも大切にしながら、手探りで前に進んだように思います。

その中で見つけた、まずは活動を楽しむこと、地域に丁寧に寄り添うこと、そして何よりも卒塾後の

息の長い活動が一番大切だということ。

16期は現役世代の塾生も多く、忙しい日常の中で職場でもない家庭でもない第3の居場所のような場で、自分が大切にしているモノやコトを仲間と創っていきたい。そんな想いが感じられました。

皆さんは今後も活動を継続されると聞いています。私たちスタッフ一同、これからも応援しています。一緒に頑張りましょう！



淡海ネットワークセンタースタッフ一同



平井 あゆみ
Hirai
Ayumi
(あゆっちょ)

循



藤井 誠人
Fujii
Makoto
(まこっちょ)

夢



不破 亨
Fuwa
Toru
(ふわっちょ)

変



伯耆 雅美
Houki
Masami
(ホーキー)

茶



堀 豊
Hori
Yutaka
(ホリックス)

遊



薮 克実
Yabu
Katsumi
(やぶこ)

良



薮 治彦
Yabu
Haruhiko
(やぶお)

撮



山本 直幸
Yamamoto
Naoyuki
(ダニー)

始



吉竹 真也
Yoshitake
Shinya
(たけっちょ)

縁

編集を終えて-----

3つのどのグループもコロナ禍で思うように活動できず、苦労しながらも、全員揃って卒塾という快挙を達成！オンラインの入塾式から始まり、期待と不安でどうなるかと思いましたが、かけがえない経験と知識と仲間を得ることができました。

この19人3つのグループの軌跡を、編集委員会で力を合わせて作りました。特に、みっちょには大いに助けられました。

私たちの活動の一つの締めくくりとして、関わってくださった皆さんに心からの感謝の気持ちを込めてこの報告書を発行します。お読みくださりありがとうございました。

-----やぶお



多くの皆さんの「寄り添い」があったからこそ「全員卒塾」

16

淡海ネットワークセンター
(公益財団法人 淡海文化振興財団)
滋賀県大津市におの浜一丁目1-20
TEL077-524-8440 FAX077-524-8442
E-mail office@ohmi-net.com



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団